



小松市立学校PTA連合会  
会長 道場 幹雄

## 家庭教育力向上を目指して

本年度、小松市立学校PTA連合会では『共に学び 共に育つ 明るい未来のために ~家庭教育力の向上を目指して~』という主題のもと活動して参ります。

家庭教育は乳幼児期から、家族の愛情やふれ合いを通じて基本的な生活習慣や思いやりの心、更には自立心や社会的マナーなどを身に付けていく上で重要な役割を担っています。子どもたちが、やる気をもって前向きに生きていく力の源となる自己肯定感、家族の愛情により家庭内で育まれていく事が理想的であり、これらは子どもたちの心の成長の中で一番大事な部分ではないかと思えます。この家庭教育の重要性について保護者に理解を促すと共に、学校や地域と連携して家庭教育力の向上を目指します。

また、今では学校教育でもインターネットが利用され、子どもたちにとって欠かせない存在となっています。しかしインターネット上には子どもたちの健全な成長に悪い影響を与える有害情報がたくさんあると共に、ネットいじめの原因にもなっています。子どもたちが安全に安心してインターネットを利用するためには、子どもと一緒に保護者自身がインターネットに関する知識や情報モラルを学び、人と人とのコミュニケーション能力を身につける必要があります。本年度は例年取り組んでいる『早寝早起き朝ごはん運動』と合わせて、安全安心なインターネット利用に関する啓発活動を実施し、子どもたちの更なる生活習慣の向上に努めます。

子どもを育て、教育することにおいて第一歩の責任は親にあります。しかし子どもは成長と共に、親の目の届かないところに生活の幅を広げていきます。こうした子どもたちを見守り、健全に育てさせるためには家庭と学校、地域の人々が力を合わせて、子どもたちのよりよい成長の場を作り上げて行かなければなりません。『知行合一』という言葉がありますが「行なわなければ知っているとはいえない。知っていても行なわないのはまだ知らないのと同じである。知って、行なってこそ、本当の知恵、真知である」という意味だそうです。会員の皆様が楽しく参加して、楽しく活動できる魅力溢れる小松市立学校PTA連合会にしていきたいと考えております。

最後に、私たちが「共に学び、共に育つ」子どもたちの明るい未来のために学校や地域の人々と協力して活動して参りたいと思います。皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ★平成29年度 市P連組織

◎ 委員長 ○ 副委員長 ● 校長

<b>顧問</b>	<b>副会長</b>	<b>副会長</b>	<b>副会長</b>	<b>副会長</b>	<b>副会長</b>	<b>副会長</b>
齋藤 浩 (芦城中) 岡田 直樹 (板津中)	野村 佳史 (中海小)	出淵 順一 (日末小)	城下 信也 (稚松小)	阿戸 寛明 (松陽中)	江口 充 (稚松小)	堀田花菜子 (串小) 岡田 里美 (第一小) 石川PTA連合会家庭教育部長 池田ますみ (符津小) 西多 洋子 (芦城小)
<b>会長</b>	<b>総務委員会</b>	<b>広報委員会</b>	<b>豊かな心を育む委員会</b>	<b>新世代委員会</b>	<b>未来の宝育委員会 (特別委員会)</b>	<b>母親委員会</b>
道場 幹雄 (串小)	清水 吉田 新倉 北出 田村 大助 山崎 眞一 義彦 篤志 修次 能代 眞一 安宅 第一 東陵 小 一月津 小	谷口 中田 橋 大野 村田 和也 一基 紀存 正博 向本 瑞樹 金野 渡辺 折小 津小 今江 小 谷小	上士利 打田 西山 山本 黒宮 勝仁 賢 安宅 明 中海 誠 渡辺 安宅 小 野小 小 小 小	藤本 深田 遠州 橋本 石郷岡 英之 国府 誠一 松東 博智 淳也 松陽 中 中 丸内 洋右 丸内 中	中森 清丸 上野 野村 城下 阿戸 健文 達正 佳史 順一 寛明 能美 勇尾 正則 史 中 松陽 美 小 小 小 小 中 中	◎ 忠谷 〇 釣川 〇 蜂谷 千鶴 千鶴 久子 小 小 千鶴 千鶴 久子 小 小 A出村 康恵 裕美 B池田 裕美 裕美 C濱谷 裕美 裕美 D松本 昭江 昭江 E中川 千英 千英 F中川 千英 千英 G中川 千英 千英 H中川 千英 千英 I中川 千英 千英 J中川 千英 千英 K中川 千英 千英 L中川 千英 千英 M中川 千英 千英 N中川 千英 千英 O中川 千英 千英 P中川 千英 千英 Q中川 千英 千英 R中川 千英 千英 S中川 千英 千英 T中川 千英 千英 U中川 千英 千英 V中川 千英 千英 W中川 千英 千英 X中川 千英 千英 Y中川 千英 千英 Z中川 千英 千英
<b>監事</b>	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)	高田 奥村 菅野 ● 牛丸 正浩 孝司 智子 厚 野村 典子 (中海小)
<b>会計</b>						

# 石川県PTA地区別研究指定発表会 第60回小松市PTA研究大会

日時：平成28年8月6日(日) 場所：こまつ芸術劇場うらら

今年の研究発表は板津中PTA、金野小育友会、月津小育友会の3校で、いずれも特徴のある素晴らしい内容でした。講演会では「PTAをけっこうラクにたのしくする方法」と題しまして、大塚玲子氏がPTAを現代風に改革した実例やアイデアを語っていただきました。



講師：大塚 玲子 氏

## 小松市教育委員会表彰



岡田 直樹 様・丸山佳世子 様  
嶋多 直子 様

## 小松市立学校PTA連合会会長感謝状



野村佳史様・神田淳一様・竹村法順様・前川幸太郎様  
佐久間雅子様・西尾小わがまち防犯隊様

## 板津中学校

ITAZU

### 研究発表を終えて

板津中学校PTA 会長 黒崎 友和

「このタイミングで研究発表が当たるか…」私が会長職を引き受けた時の、正直な感想でした。小松市内の中学校は10校。1年に一校なので、10年に一度です。このタイミングでの会長就任に、自らの運命を呪いましたが、それでも内心「適当に活動をまとめればいいでしょ」と軽く考えていました。

しかし今年4月の、会長になって初めての役員会で、その考えが

甘かったことを知ることとなりました。なぜなら、研究発表のスライドや原稿が、昨年度の役員の方々の手によって、すでにある程度まとめられており、なおかつその量が膨大なものだったからです。スライドや原稿が多いということは、それを作った昨年度の役員のみさんの想いがそれだけ込められているということに他なりません。この日を境に私の意識は、「適当に…」ではなく、「みんなのためにも、いい発表にしなければならぬ」というものに変わっていきました。

発表時間は出入りも含め20分と決められているため、打ち合わせでは、発表内容の取捨選択に苦労しました。しかし、役員みんなで議論しながら、昨年度の役員の方々の想いも汲みつつ、必要なものをピックアップしていくという作業は、苦労はありましたがとても楽しい時間でした。その甲斐あって、発表内容は打ち合わせを重ねていくごとに洗練されていき、最終的にはすばらしいものになったと自負しています。研究テーマの「子どもに見せよう、大人の背中」のように、子どもに自信をもって見せられる。そんな発表になったと思います。

今回の発表を通して、非常に大きな収穫がありました。それは、役員全員が一つの目標に向かって進んでいったことで、一体感が生まれ、仲間という意識が生まれたことです。このことで、今後のPTA活動にも良い影響が出るものと期待しています。

最後になりましたが、このような発表の場を与えてくださった関係者の皆様に感謝するとともに、今回の発表に対し多大なる協力をいただいた役員や先生、保護者の皆様、そしてなにより板津中学校の生徒たちに、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。





## 金野小学校

KANENO

### 第60回小松市PTA研究大会を終えて

金野小学校育友会 会長 大野 瑞樹



金野小学校育友会では「地域は家族、みんなで育てる金野っ子」  
～ 未来につなげる金野っ子魂 ～ をテーマとし発表を行いました。

本来であれば昨年からの準備は旧役員の方で、発表は新役員の方での流れになるのですが、金野小学校が今年度で閉校となり他校との統合で62年の歴史の幕を閉じる事が決まり、新役員だけでは重責すぎるとの事から急遽旧役員の方で発表まで引続き行って頂く事になりました。幸い小規模校なので顔なじみでもあり快く引受けて頂き「どうせやるなら！」とより一層結束力が高まった気がします。発表の内容については「挨拶運動・ネットへの取組みなど」普段より取組んでいるものばかりだった為、特別何かをしなければならないということもなくスムーズに進んでいったと思います。せっくなので親子奉仕作業後に何かやってみようとの話になり『ケンパがいいんじゃない?』との意見で実際にやってみると親世代はとても懐かしく、子どもたちはとても新鮮だったのか大変盛り上がりました。その後も子どもたちだけで休み時間に行っているようです。他では学校紹介で『閉校の事や今後どの様な学校になるのか』を説明する内容も盛込む為、市教委からの二転三転する内容変更や予期せぬ新聞発表に翻弄され発表資料をギリギリまで変更、修正を繰り返し大変苦労させられました。また、事前に視察頂きました市P連の役員の方々には内容が濃すぎて情報量が多すぎるとの指摘で少し減らす事、あと楽しく、面白く発表出来ればいいのでは?とアドバイスも頂いたことで更なる完成度が上がり自信に満ちて発表に臨む事が出来ました。

金野小は無くなってしまいとても寂しいですが『金野っ子の魂』は個々の中に生き続けると思っています。年度初めには研究発表、閉校と重責が重なり逃げ出したい気持ちでいっぱいでしたが、結果とても有意義な時間を過ごせられない思い出になりました。

最後になりますが、地域の皆様、昨年度の役員、今年度の役員、先生方、そして当日も応援に来て頂いた保護者の方々など非常に多くの皆様のご支援、ご協力を頂きこの研究発表を終える事が出来ました。深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 月津小学校

TSUKIZU

### 第60回PTA研究大会を終えて

月津小学校育友会 会長 北出 真一



今回の研究大会は、60回ピッタリということもあって、節目とも受け取れる大会だと月津小学校育友会は受け止めて、昨年度から発表材料を皆で吟味して決めるところからスタートしました。

昨年度の役員と一体となって、資料集めから始まったばかりだと思っていたら、もう一年がたち、発表まで2か月余りとなってしまいました。

もう猶予はないところまで追い込まれてやっと、個々のちからが発揮されて、短い期間に中身がぎっしり詰まった発表を完成させることが出来たと私個人は、勝手に思っています。

役員全員が、研究発表は初めて経験することでしたので、途中、迷いながらも何とか完成させ、無事発表を終えたことによって、役員全員がPTAの活動の中身を本当に理解でき、より一層身近に感じる事が出来る様になったと思います。

発表を成功させる事が出来たことによって具体的に子育てに関する事を自分たちの地域の人や、子どもたちに伝える事が出来る様になりました。

この様な結果は、育友会だけではなく、月津小学校や校下全体の結束が強くなったと実感できました。

それと、子どもたちの為に日々尽力しておられる方々と実際にお会いする事も出来ましたし、たくさんの方々に感謝する事が子育てに繋がっていくことも体感できました。

最後にまとめになりますが、発表校を経験したことによって、沢山の未来の子どもたちの為に、何年、何十年先と、自然に受け継いでいかなければならない事だと改めて思いました。

それと、常に子どもから学ばされることが多く、日々、大人が進化させられ大人が進化した過程を教えていくということではないかと自分は思いました。子育てと親の成長は、同時進行だとしみじみ感じました。

これから先もずっと、沢山の子どもたちの成長を見守って行きたいと思えます。

発表を終えて得た収穫は、とても大きなものとなりました。自分自身も少し成長出来た気がします。貴重な経験をさせて頂きまして本当にありがとうございました。



# 第1回 母親委員会

日時：平成29年5月19日(金) 午後7時より 場所：ホテル サンルート小松



母親委員会委員長  
忠谷 千鶴

私たち母親委員会は、市内各小中学校の母親代表35名が4つのグループに分かれ、子育てや子どもとの関わり方、また子育て中の自分自身の悩みについて研修をおこなっています。委員の方それぞれに意見や考えを出し合い、自分とは違う価値観の存在に気づき、理解しあう事ができる場になっていると思います。

委員の皆さんが研修を通して深められた内容を、皆さまにお伝えすることができるよう報告書を作成し、12月に予定されています「早寝早起き朝ごはん運動」小松市民大会にて発表することになっておりますので、ぜひご覧になってください。自分ではこうだ、と思っていたことも別の角度から見ることができたり、新たな気づきができたりするのではないかと思います。そしてそれをご家庭に合わせて活かしていただけることを願っています。

## わが子発見を楽しみませんか



小松市立那谷小学校  
校長 中川 千英

わが子となると、なぜか気になるところばかりが目につきませんか。他の子と比べてはいけないとわかっているのに、つい比較してわが子に要求したり、がっかりしたりしてしまいがちです。それは、わが子が可愛いからこそ、大事だからこそ、そう思う親心だと思います。

しかし、じっくりと観察してみてください。意外なわが子の良いところを発見するものです。「よくしゃべる落ち着きのない子だと思っていたら、畑仕事をしている地域のおじいさんやおばあさんに自分から挨拶し、楽しく会話をしていた」とか、「おとなしく引っ込み思案な子だと思っていたら、旅行に出かけたときに自分から道を尋ね、お礼までしっかりとっていた」などの新たな発見があり、成長を感じるものだと思います。時には親や祖父母に似ているところも発見し、思わず笑みがこぼれるかもしれません。また、わが子理解にもつながります。そうすれば、ついつい叱ってしまう声が引っ込むことでしょう。

ぜひ、わが子発見を楽しんでみてください。夫婦の会話や親子の会話も楽しくなるのではないのでしょうか。

読んでみまっし!



## 『たがのわ』

30年以上にわたって小児診療に携わってきたベテラン医師による、子育てや小児科受診の際のアドバイス集。これまで300回以上の子育て講演会を行ってきた著者が、はじめてポイントをまとめた一冊です。

(ご購入はアマゾンでお願いします。)



## 母親委員会

奥村 幸恵 (Kunimura Yukie)  
西田 梢 (Nishida Shota)  
高野 美貴 (Takano Miki)  
出村 康恵 (Demura Yasuie)

今年度は、私たちが担  
よろしくお願



# 第2回 母親委員会

講師

多賀クリニック 院長

## 多賀 千之先生

## 《プロフィール》

昭和56年に三重大学医学部を卒業後、小児科医としていくつかの病院に勤務され、平成26年に白山市で多賀クリニックを開業。「分かりやすい説明・質問できる雰囲気」をモットーに診療されています。50歳を過ぎた頃から、これまでのご経験を生かし、「子育て」に関する講演会を積極的に行っておられます。

講演会①

日時：6月1日(木) 午後7時より

場所：白楊幼稚園さんにて

## 『子どもたちの心の中の“甘える壺”を満たすために』

アンケートより



- 子どもが小学校入学前に聞いておきたかった講演内容でした。あの時そんな風に思っていたらもっと楽しく子育てできていたなあと思いました。
- 我が家の娘たちは高3・中3と思春期真っ盛りで毎日ナマイキなことばかりです。正直かわいいと思えることは少なく、イライラするばかりですが、今日の講演を聞き、忘れていた気持ちを思い出しました。
- 日々忙しいと言っては、甘えさせてあげてないことに気が付きました。
- 子どもがもう少し小さいときだったら簡単に甘えさせてあげることが出来たと思いました。高学年なので、“工夫”をしないと甘えさせてあげるのが少し難しいなど。

講演会②

日時：7月1日(土) 午後2時より

場所：第一コミュニティセンターにて

## 『お母さんのためのお父さん作り教室』



アンケートより

- 自分では「ありがとう」というよう心掛けているつもりですが、お父さんに対して「いつもの自分よりも努力してありがとうと言う」事がどのような変化を生むのか楽しみです。そしてお父さんが「父親」を楽しんで満喫できるように、私も「母親」として「妻」としてまだまだやってみたいと思います。
- 塵も積もれば山となる・・・沢山のありがとうの言葉も家庭の中で沢山積もって、子どもたちにありがとうの言葉を沢山伝え、これが「うちの憲法です」と言えるよう楽しみながら試していきたいと思っています。

広報担当

日末小)  
中海小)  
蓮代寺小)  
符津小)

当させていただきます。  
願います。





# 単Pだより

木場小学校

## 単Pの枠を超えた 他の地域との関わりについて

木場小学校育友会 会長 岡田 忠之

木場小学校はその名のとおりに木場潟の湖畔に位置する自然豊かな地域にある学校です。明治6年創設以来、歴史は約145年余りにもなります。現在は少子化の影響を受け、全校児童78名と小規模校ではありますが、「～つなげよう！家庭・学校・地域の輪～」のスローガンのもと、登校指導、交通教室、親子奉仕作業、米づくり、収穫祭、スキー教室等々コンパクトながらも児童の安心、安全、そして笑顔のために家庭、学校、地域が一体となって様々な活動を行っています。しかし、今回は少し視点を変えて「南部地区青少年健全育成協議会」について紹介したいと思います。私たち木場小学校育友会が属している木場校区は、南部中学校校区でもあり、その南部中校区内における地域、住民、学校、社会教育関係者が連携し、南部地区の青少年健全育成を目的として結成された「南部地区青少年健全育成協議会」という広域団体に常任理事として参加しています。常任理事には、南部中校区の小・中・高の校長先生、各校PTA会長、校下公民館長等が毎年任命されてきました。この南部地区青少年健全育成協議会は中学校が大変荒れている時期であった昭和54年に結成されました。以降、南部中校区小・中学校、PTA、校下公民館等地域が一丸となって子どもたちの健全育成に取り組み、安定した状況が保たれるようになりました。そして、将来に渡り同種事態への速やかな対応やその時々

(時代)に生じる課題に向き合うため、当協議会が継続され現在に至ります。大きな成果としては、不良有害図書自動販売機の撤去運動において石川県条例の改正をするほどの成果をあげています。現在は年1回「健全育成大会」を開催し、善行表彰や標語、作文、川柳の募集、単位PTAの実践発表、大会決議文の作成と朗読を行うほか、夏休み期間中の夜間巡回指導、声かけ運動、教養講演会を実施しています。今年7月に開催された「健全育成大会」では、木場校区が大会決議文の作成と朗読担当であり、今年の健全育成に対する決意表明を決議してきました。このような校区の枠を超えた活動も大切だと思いました。



## 書籍紹介

### PTA 会長に「うっかり」就任 会長を実際に3年務めたルポ !!

子どものいない者、あるいは遠い昔に子育てを終えた人からすると、PTAは秘密結社のように見える。子を人質にとられた親が、学校と教育委員会に労働力を捧げるようなものだ、と思っていた。

杉江松恋はフリーランスのライターで主にミステリ小説の評論を書いている。身の丈は180センチを超し、体重は100キロオーバー。トレードマークは金髪に髭にサングラス。それなのに話し方は優しく論理的で腰が低いので、かえってその筋の人に見えてしまう。つまり、あまり関わりになりたくない雰囲気の人だ。

ただ仕事柄、平日の昼間は家にいるし、好奇心は滅法強い。子どもが通っている小学校にも機会があれば顔を出していた。そんな姿でうろうろしていれば当然目立つ。意外と真面目そうだし、どうだろうということで、PTA会長の白羽の矢が立った。すったもんだはあったものの、杉江は3年間、区立桜庭台小学校のPTA会長を務めることとなった。

サラリーマン生活も長かった杉江のこと、一般常識は持ち合わせていたが、PTAにはPTA独自の常識が存在していた。本書で上げられたその常識はなんと35個。

PTAの規則は学校によってまちまちで、統一のルールはない(常識その1)から始まり、参加は任意で(常識その3)行政組織として「官」へ協力することがあらかじめ盛り込まれており(常識その16)子どもの入学から卒業まで、しかるべき点数分の役割分担を求められる学校がある(常識その32)など、傍からは知りえないことが満載されている。

1年目は前任者の仕事の踏襲だったが、2年目からは理不尽だと思うものは改革していく。その姿勢がかっこいい。伴走する校長ともウマがあったことが大きかっただろう。

子を介在させているとはいえ、PTAも人と人との信頼で成り立っている。あまり怖がらず、違う世界に飛び込んでみるのも面白そうだ。

(週刊新潮 2017年5月25日号より転載)



## 単Pだより

符津小学校

PTA活動と符津小学校の歴史、  
育成事業について

符津小学校 PTA会長 中田 一基

明治8年4月に符津通願寺において符津小学校が創設されました。明治23年には現在の場所に符津小学校が創設され、今に至るといふ古い歴史ある小学校です。

符津小学校は木場潟が一望でき、山々が連なる景色も見え、そびえ立つ白山の麓という見晴らしの良いところにあります。全校生徒245名、教員数30名、PTA会員数192戸の3階建ての校舎です。今年度より校舎に増設された学童がででき、多くの児童が利用できるようになりました。

符津小学校のグランドデザインは「心豊かでたくましく、しっかり考え、自ら進んで行動する児童の育成」を教育目標としています。知、徳、体のバランスのとれた教育活動を「やる気、元気、活気」をキーワードに推進している学校です。

平成29年6月3日に演劇鑑賞会と土曜参観がありました。昨年度より音楽鑑賞会として「パーカッションアンサンブルPULSE〜パルス〜」が開かれ、今年度は文科庁文化芸術による子ども育成事業による演劇鑑賞会として「劇団 風の子」の芸術家派遣がありました。光村図書出版の小学2年生の国語の教科書に採録されている「スーホの白い馬」というモンゴルの民話の題目でした。モンゴルの伝統楽器モンホール（馬頭琴）の由来にまつわる物語をプロの俳優による劇を躍動感ある素晴らしい演技に魅せられた貴重な時間を過ごしました。

符津小学校のPTA活動は、広報、保険厚生、教養、生活指導、学校の各委員会に分かれ事業を行っています。これら委員会の他に育成委員として緑の少年団があります。今年度のPTAスローガンは「どんなときも、みんなと一緒に楽しもう」を掲げて取り組んでいます。広報では年に3回「ふつつ子」という広報紙を発行し行事の報告やPTA活動の報告をしています。保険厚生では救急救命法などを消防の方を通じて、プール開き前に開催したり、講演会なども開催しています。教養では親子で行う奉仕作業など手がけ、5、6年生のスキー教室の運営をしています。学校委員会では親子レクリエーション、個人懇談などの運営を実施しています。符津PTA役員は任期が1年なので新しいテーマを行うには難しい面があります。恒例となっている各行事の反省点を踏まえて、毎年継続して行っているのが現状です。音楽・演劇鑑賞会といった芸術を感じる新しい事業は校長先生のお力に感謝しております。PTA活動は大変なものとは考えず、掲げたスローガンのようにやるからにはPTAを楽しむチャンスと受け止め、これからも皆様のお力添えを受けながら一つ一つ取り組んでいきたいと思ひます。





# 親子ふれあい体験バスツアー

## 船上イルカウォッチングと海釣り体験 in のとじま

豊かな心を育む委員会 委員長 上玉利 賢

今年は能登島ツアーを企画し、親子35組79名で海での自然とのふれあいを楽しんできました。

大型バスを2台貸し切りいざ出発です。能登島大橋を渡るとみんなワクワクした表情でした。まずは船上イルカウォッチングです。2班に分かれ船で七尾湾を遊覧しました。天気も良くとてもさわやかな海風が気持ちよかったです。残念ながら一番の目的のイルカには出会うことができませんでした。能登島に棲む野生のイルカに触れ合うことを楽しみにしていたのですが、残念な結果になってしまいました。しかしみんなの思いが通じたのか帰りのバスから野生のイルカを見ることができました。

海釣りセンターでは釣りが初めての方もいましたが、親子で四苦八苦しながらも楽しく魚釣りを楽しみました。釣り針に餌をつけるところから体験し、自分の竿に魚がかかった時の子どもたちの表情はともいきいきしていたのが印象的です。魚が釣れなくて残念だったとの声もありましたが、とても楽しかったとの声も多く楽しんでいただけたようでした。

昼食はカツカレーで、みんなで一緒に食べる効果は絶大で家ではあまり食べないのにたくさん食べてびっくりとの声もあつたり、おいしいと好評でした。

今回のツアーは、自然と触れ合う体験を企画したため計画通りにいかなかったことで、皆さんにはがっかりさせてしまったところが反省としてありました。反省点はまた来年度に生かしたいと思います。

今回の企画で参加者の皆様、関係者の方々や委員の皆様には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



### ★参加した子どもの感想

- イルカに会えなくて残念だった。
- 釣り時間をもっと増やしてほしい。
- えさを釣り針につけるのが難しかった。
- 海風がとても涼しくて気持ちよかった。
- バスツアーに参加して思い出に残ることがたくさんできてよかった。
- 魚釣り体験ではたくさんの魚が釣れてうれしかった。
- 魚釣りとイルカウォッチング2つとも初めての体験でとても思い出に残った。
- イルカウォッチングではイルカはいなくてクラゲがいてクラゲウォッチングになってしまいました。
- 一匹も魚が釣れなくて残念だった。
- 帰りのバスの中からイルカが見えたのでよかった。

### ★参加した保護者の感想

- 親子で共同作業の釣りはいい企画でした。
- 息子も私もおもしろい企画だと思い参加しました。なかなかこのようなアイデアがなかったので参加できてよかったです。
- 今回はイルカは見れなかったし、魚は釣れなかった。娘とたっぷり触れ合えたことがよかったです。
- 小型船に乗って風を切って進む海がきもちよかったです。
- 子どもたちはバスの中で楽しそうだったし、ステキな夏の思い出ができました。
- 普段なかなか子どもと接する時間がとれない中、貴重な時を過ごすことができました。
- 普段できないような体験で、心から嬉しく思う娘の笑顔を見ることができ、癒される思いでした。
- 自然相手の遊びは自分の思い通りにはならないこともあるということ子どもにとっては良い体験になったと思います。

### 編集後記

皆様からのご協力をいただき、第88号の広報誌を無事に発行することができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。今後とも広報委員会をよろしく願いいたします。

広報委員長 谷口 和也 (向本折小)

### スタッフ

中田 一基 (符津小)・橋 紀仔 (今江小)  
大野 瑞樹 (金野小)・村田 正博 (波佐谷小)  
岡田 忠之 (木場小)・熊倉 真一 (犬丸小)  
出淵 順一 (日末小)  
橘 伸一 (今江小学校校長)